

令和6年度 鹿児島県いじめ問題子供サミット



令和6年12月26日(木)、県庁2階講堂において「令和6年度鹿児島県いじめ問題子供サミット」を開催しました。令和5年度に引き続き、会場だけでなく、オンラインでも多くの学校等が参加しました。

このサミットの目的は、子供たち自身が語り合うことで、いじめを許さないという強い気持ちを持ち、自分たちの手でいじめをゼロにしようという意識を高めるというものです。

「いじめ」は、誰もが「よくないこと」と知っています。しかし、実際には、相手の苦痛に気付かなかつたり、相談せずに抱え込んでしまつたり、SOSのサインを見逃してしまつたりと、様々な難しさがあるものです。このサミットでは、子供たち同士の対話をととして、いじめ問題への理解を深めるとともに、一緒になって真剣に考えてくれる仲間がいるという「つながり」を感じる場になってほしいという思いで、毎年度実施しています。

今年度も、各地区及び県立学校の代表校に参加していただき、いじめ問題の解決や防止に向けた取組を紹介していただきました。また、鹿児島市ジュニア



リーダークラブ「コアラ」による進行や会場でのサポート、動画の脚本作成等により、校種や学年を超えた、活発な議論が行われました。

代表校による取組の紹介やいじめに関する議論をもとに、いじめ防止に向けた新たな発想が生まれ、それぞれの学校や地区における取組を広げていくきっかけになることを切に願っています。

ACT1 各地区等代表校によるいじめ防止への取組発表

いじめ問題の解決や防止に向けて、各学校あるいは各市町村等の地域がそれぞれ懸命に取り組んでいます。このサミットでは、各地区等の代表校に取組事例を発表していただきました。児童会や生徒会等が中心となり、それぞれの学校の実態に応じていじめ防止についての想いや願いを力強く訴えるものから、人権への意識や思いやりを育むものまでさまざまな取組がなされていることが伝わりました。各校による発表の一部を紹介します。



鹿児島市：鹿児島市立皇徳寺中学校

- スローガンの掲示
「心を一つに笑顔で実りある学校生活」
- 月目標の設定
「いじめや仲間づくりに関する目標設定」
- THC週間
「あいさつ運動」+「感謝を伝えるカード」

⇒ **生徒会を中心に、全校生徒が仲良く過ごしていこうとする姿勢が伝わりました。**

意識づける

- ・スローガン掲示
- ・月目標へ加える
- ・THC週間の実施

一心笑実



鹿児島：いちき串木野市立串木野西中学校

- スローガンの掲示
「自分らしく花を咲かせ実を結び、自分の学校を誇れる生徒会」
- ニシの日
「全校生徒・先生とのレクリエーション」、「全員協力」
- 「全員」生徒会
「あいさつの徹底」、「自主的な話し合い活動」、「意見箱」

⇒ **何事も全員で自分事として捉え、よりよい学校にしようという姿勢が伝わりました。**



南薩：南さつま市立万世小学校

- やさしさのはねジャックの郵便局
「感謝の気持ちを手紙に」、「友だちを思う心」
- 万世っ子スタンプ
「自ら進んで友だちに優しく」
- 万世カップ
「縦割り班活動（そうじ、あいさつ、集会・児童会活動）」

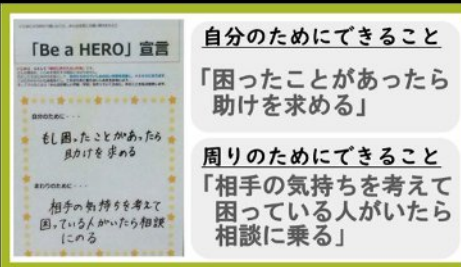
⇒ 上級生を中心に、笑顔いっぱいの学校にしようという姿勢が伝わりました。



北薩：出水市立江内中学校

- あいさつ運動
「先生方も一緒に」、「仲間意識の輪」、「地域の方との交流」
- レクリエーション活動
「先生方も一緒に」、「協力した取組」、「仲間づくり」
- BE A HERO宣言
「助ける・助けを求める」、「共感」、「尊重」、「受け入れる」

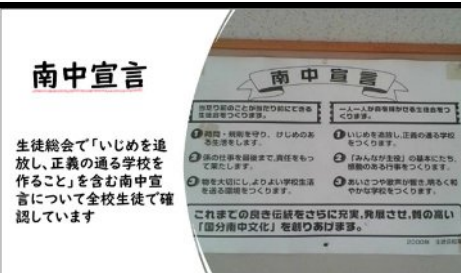
⇒ 3つの活動をとおして、誰もが楽しく学べる学校にしようとする姿勢が伝わりました。



始良・伊佐：霧島市立国分南中学校

- 南中宣言
「いじめを追放し、当たり前前が当たり前前」
- 人権標語
「校内掲示」、「人権意識を高める」
- ハッピーツリー
「うれしかったことなどを匿名で記入し、校内に掲示」

⇒ いじめのない、一人一人が輝ける学校にしようという姿勢が伝わりました。



大隅：曾於市立末吉中学校

- 学校安心安全アンケート
「気持ちを伝える窓口」、「生徒と先生でつくる」、「定期的に改良」、「生徒会の意見を反映」
- いじめを生まない環境・心地よい居場所づくり
「気持ちを聴くこと」、「思っていることを素直に伝える」、「相手の思いを受け止めることができる」

⇒ 生徒会でしかけをつくり、いじめのない学校にしようという姿勢が伝わりました。



熊毛：西之表市立伊関小学校

- カシミアの心
「先人の美しい心」「みんなに平等に接し相手を思いやる」
- 自ら課題を見つけ解決する委員会活動
「自己肯定感」、「所属感」
- 仲間づくり活動
「漢字探しゲーム」、「異年齢集団・縦割り班活動」

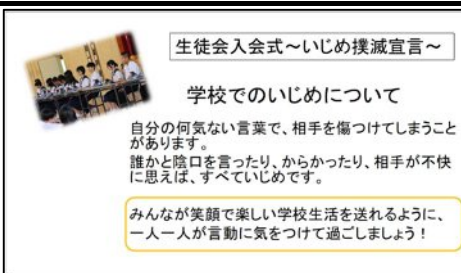
⇒ 自分も友だちも大切にして、いじめのない学校にしようという姿勢が伝わりました。



大島：奄美市立赤木名中学校

- ありがとうの木
「行事ごとに感謝の気持ちをメッセージにして掲示」
- いじめ標語
「いじめ問題を考える週間」、「いじめをしない雰囲気づくり」
- 生徒会主体の取組・いじめ撲滅宣言
「生徒会主体の学校行事の運営」、「いじめの定義の共通理解」

⇒ 生徒会を中心に、互いに注意し合える雰囲気にしていこうという姿勢が伝わりました。



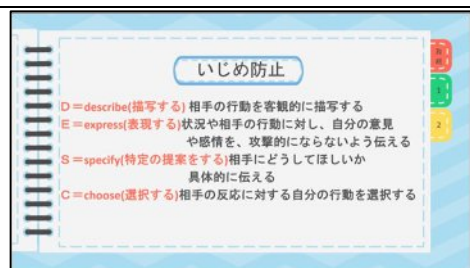
あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり

鹿児島県教育委員会

高等学校：県立甲南高等学校

- 定期的な教育相談の実施
- いじめ防止に関する統一LHRの実施
 - ・ SNS時代の「いじめ」をなくそう
「SNS上の適切なコミュニケーション」
 - ・ 「アサーティブ・コミュニケーション」を身につけよう
「自分を大切にしながら、相手を大切にする」、「伝えたいことを、自分も相手も傷つけずに伝える」

⇒ いじめについて一人一人が考え、行動する学校にしようとする姿勢が伝わりました。



各代表校の発表が終わるごとに、参加者から感想等を発表してもらいました。参加者からは、「一人一人の主体性を活かし、いじめられている仲間を救おうという取組は、魅力的であった。」、「やらされる活動から、自分たちで取り組む活動に、という意識改革が、いじめを生まない環境につながっている。」、「全員が優しい気持ちや感謝の気持ちを育む独自の取組で、いじめの起きにくい学校づくりになっている。」、「みんなのことを自分事として考える取組を参考に、視野の広い活動をしていきたい。」など、これからの取組に向けた積極的な意見が寄せられました。



児童生徒の感想

- 様々な取組を各学校がしていてとても参考になった。感謝の気持ちを伝えたり、いじめ防止を作文やポスター、リボンなどで呼びかけたりしていて、私の学校でも取り組んでみたいと思った。

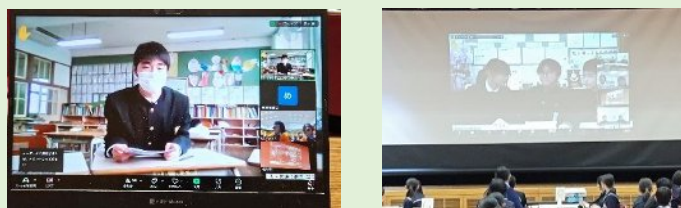
ジュニアリーダークラブ「コアラ」が活躍

「いじめ問題子供サミット」は、平成26年度開始の「いじめ防止子どもサミット」時代から、鹿児島市ジュニアリーダークラブ「コアラ」との共催により行われています。今年も、会場及びオンラインにおける進行や、教材ビデオの脚本作成、議論に参加している児童生徒たちへのアドバイスまで、さまざまな面で活躍してくれました。



オンラインでも活発な意見交換が行われました

今年度は約300人の児童生徒がオンラインで参加し、代表校の発表視聴や活発な意見交換が行われました。



ACT2 いじめについて本気で考えよう。

Aさん・Bさん・Cさんの3人は仲良しで、いつも一緒に行動していました。ところが、ある出来事をきっかけに関係はギクシャクし始め、気まずい関係に陥ります。Cさんを気遣う周りの生徒たちも、どうすればよいか悩んでしまいます。

ジュニアリーダークラブ「コアラ」が作成した脚本に基づき制作された、高校生活の中でありがちな出来事を取り上げた動画を素材に、3人の生徒を中心とした人間関係について、参加者自身が気になった場面や問題があると感じた場面を出し合い、議論しました。

あなたが気になる場面や問題があると感じる場面は



それぞれ考えたあと、お互いに意見交換しましょう。

児童生徒から出された意見

- 悩んでいる人の周りに、信頼して相談できる大人がいる必要がある。
- 悩んでいる人のサインを見逃さない。
- どこからがいじめであるのかを、みんなで考えていきたい。



ACT3 困っている仲間を救うために、自分たちに何ができるか考えよう。



最初に「いじめはよくないことと知っているのに、なぜなくなるのか。」について考え、いじめに悩んでいる仲間がいたら、自分ならどんな行動ができるか、また、いじめを起こさないために普段からできることは、どんなことがあるかについて議論しました。

参加者からは、「1人で抱え込まずに周りにしっかり相談することや、自分も相手も思いやりや言葉・行動を心がけていくことが大切だと思った。」「いじめがなぜなくなるのかを深く考える機会がなかったので、他の学校・学年の人たちの意見を聞くことで、ヒントをたくさん得ることができた。」という意見がありました。

児童生徒の感想

- 普段からあいさつを大切に、いじめを起こさないために、みんなが関わりやすい雰囲気を作りたい。
- 一人一人のいじめにたいする考え方が違うと感じるので、みんながいじめの定義や基準について、話し合う必要があると思った。
- 日常の中で、一人にならず、周囲との交流を増やすことで、お互いの違いを認識し「みんな違ってみんないい」という考え方をもつことができるのではないかな。
- お互いを思いやり、悩んでいる人が、一人で抱え込まず、みんなに相談できる雰囲気が大切だと思う。



全国いじめ問題子供サミットに参加しました（霧島市立国分南中学校）



令和7年1月25日（土）、全国いじめ問題子供サミットが文部科学省で行われ、県代表として霧島市立国分南中学校の生徒3人が参加しました。ポスターセッションでは、用意していたポスターを使って、自校の取組を他県の児童生徒に紹介したり、寄せられた質問に堂々と答えたりすることができました。グループ協議では、テーマに沿って、他県の児童生徒と議論し、議論したことをメッセージにして発表することができました。参加した3人は、得られた知見をこれからの自校の取組に生かしていきたいと意気込んでいました。

県教育委員会では、いじめを「誰にでも」「どこでも」起こりうるものとしてとらえ、子供たちの見守りに力を入れることでいじめを見逃さずにしっかりと認知し、早期対応に努めることを基本方針としています。また、児童生徒がいじめの定義や問題の難しさについて学習する機会を充実させ、主体的にいじめの未然防止に取り組むことを推進しています。

このリーフレットや各発表校の取組等を参考に、ぜひ各学校での取組の充実を図っていただきたいと思います。また、各家庭や地域においても、いじめの問題を、子供と一緒に考えていただければ幸いです。

いじめに関する相談窓口（県教委実施）あなたの悩みに寄り添います。

電話で相談 かごしま教育ホットライン24【通話料無料】
「0120-0-78310」（固定電話・スマートフォン）、「0120-783-574」（固定電話専用）
SNS等で相談 かごしま子供SNS相談・通報窓口（公立中高生が対象）

かごしま SNS 相談

検索

